



森林総合研究所東北支所

天野 智将

日本は近代以降、使用する木材の一部を輸入し、国内の需要を賄ってきました。近年自給率は向上していますが、平成21年の木材需要6300万m³の内、輸入の比率は72.8%です。これまで国際社会の中で、日本は木材消費国として位置づけられてきました。

スギの国際デビュー

平成15年より、近隣諸国への針葉樹材の輸出が増加しました(図1)。今年も既に3万5000m³を超える量が韓国、中国、台湾などへ輸出されています。この樹種の大半はスギです。

国内の木材需要が縮小する中で、資源の成熟しているスギの活用を図ろうとするものです。

各国の状況

当初は中国の安い人件費を利用して加工し、日本で販売する取り

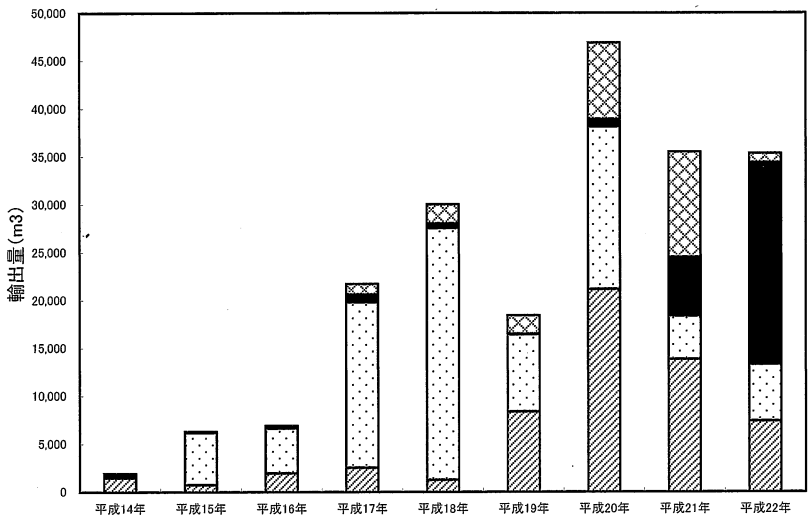


図-1 我が国からの針葉樹材の輸出
資料：日本貿易統計

注：各年は1～12月。平成22年のみ1～9月

いですが。材の品質は問われませんが、安価かつ大量に供給されることが重要です。平成21年以降、中国向けの輸出は増えていません。先に述べたような事情に加え、木造住宅が普及しておらず、住宅構造材の需要が無いこと、内装及び家具に関しては、広葉樹(堅木)嗜好の強いことが理由と考えられます。中国における木造住宅の普及は、日本に限らずカナダなど森林国の関心事ですが、まだ時間がかかるでしょう。

韓国・台湾では、スギの柔らかな感じが内装材として認められつつあり、住宅構造用材としても今後の活用が期待されています。

いずれにしても、他の輸入木材と競争し、輸出先で認知されなくてはなりません。

産地が取り組むこと

このように日本のスギが輸出されるようになったことは、日本におけるコスト削減の努力が成果を發揮し始めたことと評価できるでしょう。しかし、中国での状況にみられるように、真の国際競争力を持つとまでは行きません。小規模かつ断片的な素材生産の克服など課題も残されています。

そのためには、地域で協業し、安定的かつ効率的な供給体制を作る必要があります。資源としての評価が高まれば、よりよい価格で利用されるようになるでしょう。このことは輸出だけでなく、国内での加工消費の拡大にも結びつくものなのです。

森林総合研究所東北支所

019(641)2150

組みがありました。現地の木材加工業の大規模化が進み、大量の原料を要求するようになったのに対し、継続的に安定した供給ができると見なされなかったスギは評価されませんでした。

経済発展に伴う建築ブームが続く中国において、最も重要な木材の用途は、建築現場のコンクリート工事が必要となる型枠です(写真1)。板を並べて面を作る事が日本との違

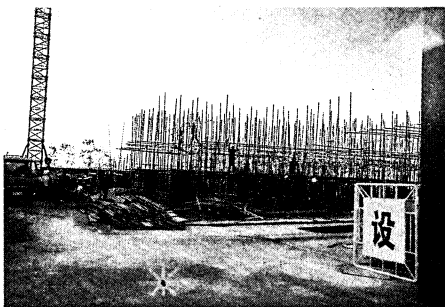


写真1